

研究課題名	2017-028 手指屈筋腱断裂における3週間固定法の治療成績の検討
実施責任者	名古屋掖済会病院 リハビリテーション部 作業療法士 稲垣慶之
研究の概要	<p>手指の屈筋腱断裂の後療法として、3週間固定法と早期運動療法のいずれかが選択されます。</p> <p>3週間固定療法は再断裂が生じにくいとされる反面、癒着を残す症例が多いとされています。</p> <p>3週間固定療法が選択された患者様について、その最終成績から、成績を下げる要因や問題点を、当院の電子カルテシステムより情報を収集して検討します。</p> <p>この内容には氏名・住所といった個人を特定できるような情報は含みません。</p>
実施の期間	2011年 1月 1日 より 2017年 9月30日 まで
研究対象	上記の期間に当院整形外科にて、Zone I と II の手指屈筋腱断裂に対して、後療法として3週間固定法がおこなわれました患者様が対象となります。